

谷川真理さんが来町！

積丹ウォーキングフェスタ



7月17日、2つの積丹町町制施行60年記念事業が他の記念事業に先駆けて開催されました。

岬の湯しゃこたん周辺の町道（農道）では、町と町教育委員会の主催（公財）日本財団と（公財）ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の後援で「積丹ウォーキングフェスタ」が開催され、約80人が参加しました。

この事業は、スペシャルゲストとして東京国際女子マラソンやパリ国際マラソンなどでの優勝経験を持つ谷川真理さん（写真上）を迎え、積丹町の自然の素晴らしさや歩くことの楽しさを感じながら健康づくりを行うことを目的に実施されました。

参加者は谷川さんの掛け声で岬の湯をスタート。それぞれの体力に合わせて3km・5km・10kmのコースに分かれ、ウォーキングで汗を流しました。

また、会場では町内の小学生を対象に札幌学院大学経営学部河西ゼミナールの主催で「おしごと体験」が実施され、子どもたちが参加者に飲み物を提供し、その対価を得るといふ体験も行われました。

町制施行60年記念主要事業のお知らせ

積丹町は、昭和31年9月30日に旧美国町・旧入舸村・旧余別村の1町2村が合併し、本年で60年の節目を迎えます。

それぞれの地域や家庭で60年の歩みを共に振り返り、改めて郷土愛の大切さを共有。育む機会として、8月以降に主に次のような「積丹町町制施行60年記念事業」を実施します。

1 NHK「民謡を訪ねて」番組公開録音

日程：平成28年9月18日（日） 場所：総合文化センター

主催：NHK札幌放送局、積丹町 参加方法：7月20日配付の往復はがきを使用して参加申込

2 札幌交響楽団積丹公演

日程：平成28年10月29日（土） 場所：総合文化センター

主催：積丹町、積丹町教育委員会、（公財）札幌交響楽団 協賛：（公財）萬田記念財団（札幌市）

3 北海道日本ハムファイターズ応援大使事業

①応援バスツアー（申込は終了しました） ②応援大使ふれあいトークショー等

日程：8月21日（日） 場所：札幌ドーム 日程：調整中 場所：総合文化センターほか

4 札幌しゃこたん会ふるさと探訪バスツアー ～思い出の古里の地を訪ねて～

日程：調整中 場所：積丹町内 主催：札幌しゃこたん会

5 「広報しゃこたん」特集号発行

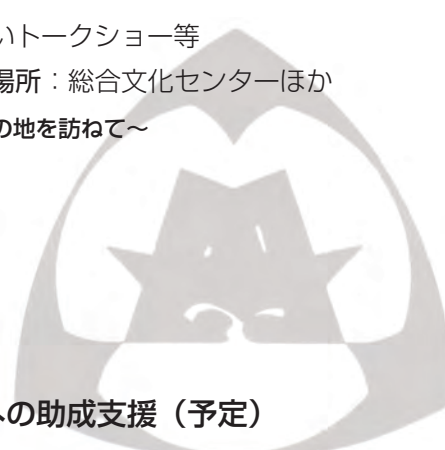
発行時期：9月末予定

6 町民文化公演会（芸能ショー等）の実施（予定）

日程・場所：調整中

7 教育・文化・スポーツなど町民主催の大会・イベントへの助成支援（予定）

町内関係団体へ意向調査を実施予定



「ゆるり」オープン記念！ 初の積丹夏季認知症セミナー

また、同月17日と18日の2日間、総合文化センターで社会福祉法人よいち福祉会の主催で当町で初めての「積丹夏季認知症セミナー」地域住民と共に考える」が開催されました。

地域密着型特別養護老人ホーム「ゆるり」の本荘 頼賢施設長と松井町長のあいさつで幕を開けたセミナーでは、道外社会福祉法人の施設長らによる講演が行われ、日本社会事業大学客員教授で介護サービスの第三者評価等を行うNPO法人「メイアイヘルプユー」代表理事の新津ふみ子さん（東京都・写真下）らによるシンポジウムや事例検討を行うグループワークが行われました。道内のほか、東京都など道外からも訪れた専門職の参加者は2日間行われた講演や情報共有を通じて知識を深めました。また、セミナーには「ゆるり」や町社協職員も多数参加し、介護サービスの質の向上や、信頼される施設運営を目指して熱心に学習していました。

また、この日は「ゆるり」の見学会が同時開催されました。



“海を育むチャレンジ”に高い評価

積丹地域MV協議会が北海道MV 21 促進期成会会長賞

魅力ある漁港・漁村づくりに取り組む「地域マリンビジョン（地域MV）」策定地域の優れた活動を表彰する「北海道マリンビジョン21コンテスト2015」の表彰式が、7月13日に札幌市内のホテルで举行されました。

今回、個別取組部門で積丹地域マリンビジョン協議会が「北海道マリンビジョン21促進期成会会長賞」を受賞し、森利男会長（苫前町長）より奥山副町長へ表彰状が贈呈されました。

積丹地域マリンビジョン協議会は、サケ資源の増大に向けた余別新川上流への簡易魚道の設置や森林保全活動、サクラマス祭りの開催など、森・川・海の繋がりをテーマとした様々な取組が評価されての受賞となりました。

また、表彰式の後、西川農林水産課長がサケ資源増大に向けた余別新川での取組について事例報告を行い、来場者の関心を集めました。



公益社団法人全国漁港漁場協会主催による第19回日韓漁港漁場漁村技術交流会が札幌市で開催され、来道した参加者が6月22日、美国漁港の視察に訪れました。

この日は、橋本同協会長をはじめ、韓国漁村漁港協会会長や韓国海洋科学技術員、水産庁、北海道開発局など21人が美国漁港と水中展望船、練伝習館ヤマシメ番屋を視察しました。番屋では別所範一（一社）やん集小道協議会代表から同館修復保全活動の経緯や今後の抱負について説明が行われ、韓国の参加者からは市民運動による漁村の協働のまちづくりについて多くの質問が寄せられています。

漁村の歴史的建築物保全活動に称賛 韓国漁村漁港協会が美国漁港等を視察



第23回北後志消防大会

杉山 賢さん 消防庁長官表彰

今井 諭さん 日本消防協会表彰

6月26日、赤井川村で第23回北後志消防大会が開催され、永年にわたり消防団員として在職し、その功績が顕著な方に贈られる消防庁長官定例表彰「永年勤続功労章」に積丹消防団第3分団長の杉山賢さん（64歳・入舸町）が、また、日本消防協会定例表彰「功績章」に同消防団長の今井諭さん（66歳・美国町）がそれぞれ受章され、表彰状が伝達されました。

また、北後志消防大会では、表彰に先立ち、5消防団の部隊演習が行われ、2種目で次の9人が日頃の訓練の成果を披露しました。

小型ポンプ操法
第8分団 飯田浩紀・野宮正明（神 岬） 中畑正和・住吉隆夫
放水競技
第5分団 横山弘明・横山光明（野 塚） 中村 修・齋藤博文

杉山さんは昭和51年に消防団に入団、平成25年からは第3分団長として旅館業を営む傍ら40年余の長きにわたって第一線で活躍され、今井さんは昭和48年に入団以来43年余に渡り在職され、平成21年からは団長としてその指導力を発揮されています。

吉田幸二

このほか、後志地方支部余市分会優良団員表彰として次の方々が表彰されています。
第1分団 班長 別所範一
第4分団 団員 杉野徳幸
第7分団 団員 伊藤浩介



移住定住対策を推進!

新しい定住支援員 妹尾大輔さん

7月から、新しく定住支援員として妹尾大輔さん（38歳）が町企画課で勤務しています。

定住支援員は、移住希望者への情報提供や定住の支援などに取り組んでいただく役割を担っていただきます。

芦別市出身の妹尾さんは、道内のホテル等で旅行エージェンと連携した宿泊プランの構築や、「食」を通じた地域のPR

活動等の仕事に携わり、平成25年に独立。企業や店舗、団体の接客や営業等の実務、イベント等の企画・告知などによるアドバイスのほか、空知観光コンシェルジュとして観光PRにも取り組んできました。

妹尾さんは『積丹町でいろいろな体験をし、「よそ者」の視点で魅力あるものはより魅力的に、足りない部分は補いながら町外の方にまずは積丹町を訪れる機会を作っていきたいと思います。SNSなども活用しながら積丹町での過ごし方や楽しみ方も伝えていきたい。魅力を生み出すキーマンは町民の皆さんとっておられますので、皆さんと協力しながら「みんな町を盛り上げる」意識づくりの開拓を進めていきたいです。見かけたら気軽に声を掛けてください!』と抱負を話してくれました。



町外の方にまずは積丹町を訪れる機会を作っていきたいと思います。SNSなども活用しながら積丹町での過ごし方や楽しみ方も伝えていきたい。魅力を生み出すキーマンは町民の皆さんととおられますので、皆さんと協力しながら「みんな町を盛り上げる」意識づくりの開拓を進めていきたいです。見かけたら気軽に声を掛けてください!』と抱負を話してくれました。

第66回 社会を明るくする運動

積丹町作文・標語入選作品



▲高瀬昇余市地区保護司会長より松井町長へ内閣総理大臣メッセージが伝達

◆作文の部◆

〈小学生の部〉

金賞 「障害者への心づかい」

野塚小5年 佐藤 達史 君

銀賞 「地域とふれあい」

野塚小5年 生駒 雄磨 君

銀賞 「家族との時間」

日司小4年 三上 琳加 さん

〈中学生の部〉

金賞 「かけがえのない存在」

美国中2年 三上 琴加 さん

銀賞 「人と人との大切な関係」

美国中1年 入間川海星 君

銅賞 「政治と自分」

美国中2年 佐々木鉄八 君

銅賞 「社会を明るくするために必要なこと」

美国中1年 吉田 美咲 さん

◆標語の部◆

〈小学生の部〉

金賞 だいじょうぶ 一人じゃないさ みんないる

美国小3年 原 汰綺 君

銀賞 出会ったら 笑顔であいさつ 自分から

美国小6年 加藤 杏菜 さん

銅賞 がんばろう ゆめがあるなら 一ぼすすむ

美国小2年 丹場 祥平 君

〈中学生の部〉

金賞 心の輪 続く笑顔の 道たえず

美国中3年 竹谷 由唯 さん

銀賞 辛い時 一人で悩まず 言う勇氣

美国中3年 野澤 瑞樹 君

銀賞 だいじょうぶ その一言が まほうの言葉

美国中1年 柏崎 泰佑 君

今年で66回目となる「社会を明るくする運動」が全国各地で様々な催しを行う中、7月8日、北後志5町村の保護司や関係団体によるパレードが行われ、各町村へ「犯罪や非行のない社会づくり」についての内閣総理大臣、北海道知事メッセージが伝達されました。また、町では、この強調月間に合わせ、町内の小学生から応募のあった151点の作文・標語の中から13点の入選作を決定し、7月20日には総合文化センターで松井町長より入賞者への表彰が行われました。

《「作文」・中学生の部》 金賞受賞作品

「かけがえのない存在」

美国中学校2年 三上 琴加

皆さん家族を大切にしていますか？

私は家族というものは自分にとってかけがえのない存在だと改めて思うようになりました。

そのきっかけとなったのが、熊本の震災です。その震災では多くの人々が家を失い、苦しみ、今でも不安で不安で眠れない。ご飯が食べられない。など、心が痛くなりました。私は今は今あたり前のようにご飯を食べ、それが本当に幸せなんだと改めて実感しました。帰ったら温かいご飯があつて、家に帰りたくないと思ふこともあるけれど、家族がどんなに自分の支えになってくれるか。家族って素晴らしいと思ひます。ママやパパがいなかったら今の私はここにいないで、じいちゃん、ばあちゃんがいなかったらママもパパもいない。そう思うと、今ここに居ることは奇跡だと思ひます。

この世界でおこっていること一つ一つが奇跡。どれほどの奇跡が重なって今があるのだろうと思ひます。ニュースでも人殺しなどは少ない

くないですが、なんでそんなことをするのだろうと、こんなに深く考えたことがあるのかと思ひました。そういうことをなくすためにも、人とのつながりや家族などのことを一度深く考えてほしいです。イジメだって同じだと思ひます。家族を大切にしたい証拠だと思ひます。

私がそう思う理由は、友達を大切に出来ない人が家族を大切にできないだろうと思ふからです。一人でも多くの人がそういうちょっとしたことを思い合えることで、少しでも世界が変わるのではないかと思ひます。

これからは、そういう気持ちはあつてはならないという気持ちを大切に、平和な世界になってもらいたいです。

私は、自分の人生が終わるまで、家族を大切に、人との関わりを大切にしていきたいです。全ての人がそう思ってくれたらいいと思ひます。

社会を明るくするためにも、人との関わりを一番に考え、なにより自分にとってかけがえのない家族を大切にしたいと思ひます。